

まんのう町中通のことなみ
未来館周辺で12日、赤トンボ
の観察会が開かれた。参加し
た親子連れは、自然の中でト
ンボを採集して生息環境など
について理解を深めた。

子どもたちに生き物や自然
に親しんでもらう「町生き物
教室」の2回目で、NPO法
人みんなでつくる自然史博物
館・香川（同町）が企画。同
法人の宇都宮靖博さんが講師
を務め、23人が参加した。

参加者はまず、赤トンボは
県内で14種が確認され、その
うち2種は環境省のレッドリ
ストで絶滅の恐れがある種に
指定されていることを教わっ

赤トンボどこかな？



虫取り網を手に赤トンボを探す子ども
たち―まんのう町中通

まんのう 親子ら生態学び、観察

た。続いて、虫取り網を手に
川や田の近くを散策。ナツア
カネやミヤマアカネを見つけ
ると夢中で網を振り、捕まえ
ると歓声を上げていた。

さらに、トンボの脚には虫
を捕獲するために毛があるこ
となど、体の構造も学習。同
館周辺はきれいな川や水田が
あり、トンボが暮らしやすい
環境が整っていることも学ん
だ。

城東小6年の高木隆之介
さん（12）は「茂みでいっぱ
い見つけた。赤トンボに興味
が湧いたので、自分でも調べ
てみたい」と目を輝かせてい
た。